

第6回リニア駅周辺整備検討会議 次第

平成28年6月6日(月) 13時30分～
飯田市役所 C311～C313 会議室

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 委員紹介 〔資料1〕
- 4 報告事項
 - (1) 第5回リニア駅周辺整備検討会議の報告 〔資料2〕
 - (2) 伊那谷自治体会議の報告 〔資料3〕
 - (3) 各部会の報告
 - 1) トランジットハブ・道路ネットワーク部会 〔資料4〕
 - 2) 魅力発信部会 〔資料5〕
 - 3) 環境・景観部会 〔資料6〕
- 5 協議事項
 - (1) アイデア募集の結果について 〔資料7〕
 - (2) リニア駅及び駅周辺地域の整備スケジュール 〔資料8〕
- 6 閉 会

平成28年度 リニア駅周辺整備検討会議 委員名簿

委員

	氏名	役職
学識経験者	小澤 一郎	(公財) 都市づくりパブリックデザインセンター理事長
	瀬田 史彦	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻准教授
	大西 達也	(一財) 日本経済研究所調査局長 兼地域未来研究センター副局長
リニア駅計画地域の代表	北原 三三	座光寺地域自治会会長
	桑原 博	上郷地域まちづくり委員会副会長
	木下 喜文	上郷北条まちづくり委員会会長
各種団体の代表者	柴田 忠昭	飯田商工会議所会頭
	田内 市人	みなみ信州農業協同組合 代表理事組合長
	萩本 範文	長野県経営者協会飯田支部長
	中田 教一	長野県中小企業団体中央会下伊那支部長
	中島 一夫	飯田観光協会会長
		信南交通(株)代表取締役社長 (公共交通関係機関)
鈴木 佳史	長野県タクシー協会飯田下伊那支部長 (公共交通関係機関)	
行政機関	水間 武樹	長野県建設部リニア整備推進局長
	山本 智章	長野県下伊那地方事務所長
	西元 宏任	長野県飯田建設事務所長
	廣瀬 一男	上伊那広域連合事務局長
	渡邊 嘉蔵	南信州広域連合事務局長
行政機関 (飯田市)	佐藤 健	飯田市副市長

部会

トランジットハブ・道路ネットワーク部会長	鈴木 弘司	国立大学法人名古屋工業大学社会工学科准教授
魅力発信部会長	中島 一夫	飯田観光協会会長
環境・景観部会長	上原 三知	信州大学農学部森林・環境共生学コース 景観計画・造園学研究室准教授

オブザーバー

事業主体	太田垣 宏司	東海旅客鉄道(株) 中央新幹線推進本部中央新幹線建設部名古屋建設部担当課長
------	--------	---------------------------------------

飯田市関係部長

飯田市	伊藤 実	総務部長
	今村 和男	総合政策部長
	竹前 雅夫	市民協働環境部長
	高田 修	産業経済部長
	木下 悦夫	建設部長
	奥出 克	建設部参事兼国県リニア事業課長
	北沢 武人	リニア推進部長
	佐藤 公俊	リニア推進部参事

第5回リニア駅周辺整備検討会議の報告

日時：平成28年3月14日 13:30～

場所：飯田市役所 C311～313号会議室

1 会議内容

- (1) 第4回検討会議について
- (2) 各部会の状況報告と検討の方向について
- (3) 今後の進め方について
- (4) アイデア募集について
- (5) 平成27年度のまとめ

2 主な意見の概要

(1) リニア駅周辺道路について

- ①南北道路について、地域の会議でも話題にあがっているので、検討して頂きたい。
- ②座光寺上郷道路から直接整備区域内にアクセスできる道路もあったほうがよい。
- ③県道市場桜町線のリニア高架下部分は防犯、安全面を考慮し、検討して頂きたい。
- ④土曾川沿いの歩道について、環境整備の観点からも検討して頂きたい。
- ⑤市道五郎田線について、国道との交差点を確保して頂きたい。
- ⑥リニアへのアクセス道路と生活道路を切り分けて考えて頂きたい。
- ⑦県道市場桜町線について、利用者の利便性に配慮して検討を進めて頂きたい。

(2) 魅力発信の視点について

- ①利用者の利便性を考慮し、駅舎、魅力発信施設のそれぞれの導入機能を整理する必要がある。
- ②飯田産業センターも魅力発信の材料の一つとして検討に加えて頂きたい。
- ③ビジネス客が増えると思うので、それをターゲットに魅力発信を考えたらどうか。
- ④道の駅的な施設を造るには、道路からのアクセスが重要になる。その際、郊外商業施設の事例が参考になると思う。
- ⑤今後は魅力発信施設の整備、運営主体を検討する必要がある。
- ⑥風景街道も観光資源の一つになるので、検討して頂きたい。

(3) アイデア募集について

- ①団体からも意見が提出できるように提案書の書式を修正したほうがよい。
- ②アイデア募集でどんな意見が出るかが大切であり、しっかりと広報して頂きたい。

(4) 今後の進め方について

- ①検討会議などでは議論に限界があるので、日頃から議論を重ねる必要がある。
- ②各論に入ると、地元からの意見が重要な意味を持つので、しっかりと意見を聞いていく必要がある。
- ③リニアバレー構想に掲げる「巨大災害時のバックアップと食料・エネルギーの新しい供給拠点」については、需要側のニーズも汲み取る必要がある。

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議の概要

長野県リニア整備推進局

1 日 時

平成 28 年 5 月 18 日（水） 午後 2 時 30 分から 3 時 50 分まで

2 場 所

県飯田合同庁舎 講堂

（サブ会場：JR セントラルタワーズ 39 階応接室（名古屋市））

3 会議内容

(1) 総括アドバイザー（（一財）日本総合研究所理事長 寺島実郎氏）講話

- スーパーメガリージョン形成に当たっては、中間駅によるインパクトが重要。
- （リニアを含めた）今後の国土形成を考えていくに当たっては、「異次元の高齢化」を視界に入れないといけない。
- リニアの開通に向けては二次交通が課題。より細かな足回りの仕組みが必要となってくる。海外では、「ウーバー」という自動車を共有し効率的に利用する仕組みがある。二次交通にもこのような「柔らかい交通」のような仕組みが求められる。
- 広域観光については、「観光を産業化する」必要があるが、日本はこの点で遅れている。日本のインバウンドは一定の顧客のみを対象としている。中国の爆買いに目がいくが、望まれるのはハイエンドのリピーターである。
- リニアによって、広域でどのようなツーリズムを構築するか。景勝地の優位性を活かす、食と農によるアグリフードツーリズムなどインセンティブを与えた基軸が必要。
- 従前の温泉観光ビジネスだけではリニア中間駅のインパクトは活かしきれない。十分に活かすためには、いわゆる「キラーコンテンツ」が求められる。
- 特に観光にとってのキラーコンテンツを生み出すには、先進的な試みと食・農などのポテンシャルとの組み合わせが必要。さらに、具体的な事業計画につながるプロジェクト化が大事な点である。

(2) 意見交換での主な発言要旨

ア 阿部知事（座長）

- 前回会議では（リニアバレー）構想の実現に向け、**「広域観光」「二次交通」「まちづくり」に関する部会を設置することを確認した。部会は各分野の有識者によって構成し、各テーマが関連するため一括して検討を進める。**
- 具体的に何をやるか、有識者の意見を反映させ、民間プロジェクトに落とし込む方向で考えたい。
- **検討成果については、飯田市の設置する検討会議でも考慮をいただければ幸い。**
- キラーコンテンツを作るためには、市町村の体力差も考慮し、地域全体で取り組んでいくことが大切。

イ 出席者

- 部会設置はよい。まずはテーマに関する議論をスタートすること。
- **自治体会議と飯田市の検討会議で方向性を合わせてやっていくのが望ましい。**市町村の境界を越えてやっていき、しっかり議論を重ねて方向性を出していければよい。
- 気楽に動けるための二次交通は大切。自動運転やウーバーの仕組みなど。（実現に向けては）先を見据えた計画が必要。
- 駅の機能は調和のとれたものを求めたい。産業の育成と調和をしてくことも大切。
- 県においてもリニア関連道路の整備を進めている。伊那谷の多くが東京の1時間30分圏内に入る。このため、自治体会議での広域的な視点を踏まえ、飯田市が検討を進めている駅周辺施設については、具体的な規模などの議論を進めていくことが大切。
- 有識者による検討を受け、具体的なプロジェクトをどうしていくのか。やり方も検討し、その後の段階まで明確にしてほしい。
- 自治体の規模も大小あるため、具体化にあたっては事務の負担に配慮されたい。
- 検討をスピードアップしないといけない。会議外でも市町村側から提案していくかたちでもよいではないか。
- 飯田線乗換新駅について、事業主体などはどうするのか。前へ進めるため、そろそろ具体的な検討に移っていかないといけない。

伊那谷自治体会議の検討体制(案)

資料 3-2

リニア中央新幹線整備を地域振興に活かす伊那谷自治体会議

(事務局：長野県リニア整備推進局)

伊那谷自治体会議 構成員

知事【座長】
飯田・伊那・駒ヶ根市長
広域連合代表
長野県
上伊那・下伊那地方事務所
伊那・飯田建設事務所

意見
提言

有識者 寺島実郎氏(総括アドバイザー)
議論全般に関し意見

【設置】 有識者 部会 (7名程度)

広域観光・二次交通・まちづくり

- 自治体会議に3つのテーマについて検討する有識者部会を設置(相互に関連するため個別ではなく、ひとつの体制で検討)
- 「リニアバレー構想」などを踏まえ議論し、今後の方向性を提示(平成28年度中を目途)

報告
提言

意見

➤ 有識者による部会と連携し、検討を進める。

検討依頼

・情報提供
・報告

伊那谷自治体会議幹事会

- 有識者部会で行われた議論を受けての視点論点の整理及び検討
- 飯田市検討会議及び地元関係団体との調整
- 自治体会議開催に当たっての調整

リニア駅周辺整備検討会議

(事務局：飯田市)

構成員

学識経験者
地元代表者
各種団体代表
長野県、広域連合等

【体制】

- ① トランジットハブ・道路ネットワーク部会
- ② 魅力発信部会
- ③ 環境景観部会
- ④ 交流人口拡大部会

【主な検討事項】

- ① 駅前広場の規模など
- ② 魅力発信施設の概要
- ③ 駅舎・駅空間デザイン
- ④ 迎賓機能、MICE機能

【検討スケジュール】

平成28年度に「リニア駅周辺整備基本計画」策定

連携・協議

1.リニア駅周辺整備基本構想の整理

ローカル 信州・伊那谷の個性で世界を惹きつけ、世界へ発信する玄関口
グローバル ゲートウェイ

基本方針の取り組みに共通する視点：“環境”“交流”

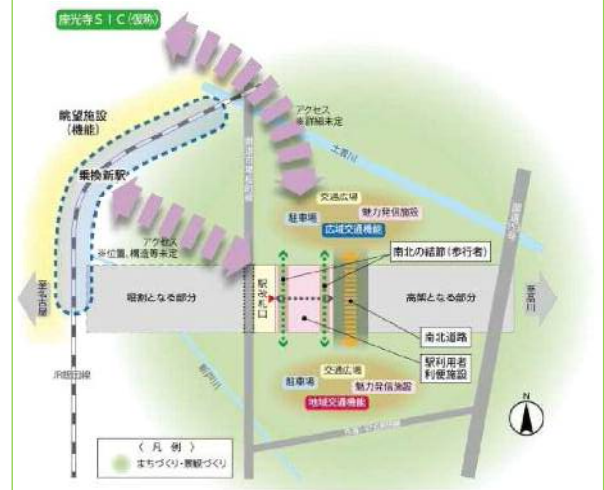
※駅前広場配置計画（南北道路配置）に関する事項を抜粋

※【詳細〇】は表下部に詳細の内容を記載

基本方針	実現に向けた取り組み
《基本方針1》 来訪者の移動を支援する“高度なトランジットハブ”を形成する 長野県の南の玄関口として、リニア駅利用者が複数のアクセス手段を有効に活用できる効率的でコンパクトな施設整備を行う。	取組1 利用者の利便性を高める交通手段を確保する【詳細①】 取組2 効率的でコンパクトな交通広場と駅利用者利便施設を計画する【詳細②】 取組3 リニア駅の利便性を高めるパーク＆ライド駐車場を適切に確保・配置する【詳細③】 取組4 地域のコミュニケーションの場ともなる、信州の魅力発信施設を計画する【詳細④】 取組5 地域の住みやすさに配慮した駅周辺整備を進める
《基本方針2》 駅勢圏の拡大に向け、交通アクセス及びネットワークの強化を進める 長野県全域へリニア効果を波及させるため、高速道路、鉄道、一般道路等を用いてリニア駅から各地域の拠点等へアクセスできる強力なネットワークを形成する。	取組1 中央自動車道との連携を強化する 取組2 各地域の拠点等へのアクセス機能を向上させる
《基本方針3》 信州・伊那谷らしさを感じられる景観づくりを進める 周辺のまちづくりも駅周辺整備と一体的にとらえ、開発をコントロールし、原風景を備えた景観づくりに取り組む。	取組1 信州・伊那谷らしさを感じられる駅空間を形成する 取組2 山並みや里山の風景を見て感じられる「見晴らし広場」を計画する 取組3 地域の豊かな景観を眺望できる「眺望の丘」を計画する
《基本方針4》 信州・伊那谷ブランドを強化し、発信する 信州・伊那谷の魅力や特徴を広く発信するため、様々な立場の人々が協力して取り組む。	取組5 リニア駅周辺整備と連携・補完する都市づくりを進める【詳細⑤】

駅周辺の配置イメージ

- 基本方針及び実現に向けた取り組みを踏まえ、リニア駅周辺整備の配置イメージを示します。
- リニア駅周辺整備の施設・機能配置は、今後検討されるアクセス道路の整備やリニア駅の構造に関する情報などを踏まえ、さらに整理を行います。



【詳細①】乗換利便

- ・バス、タクシー、自家用車など、利用者はもとより周辺居住者の利便性も高める多様な交通手段を確保する



～多様な交通手段のイメージ～

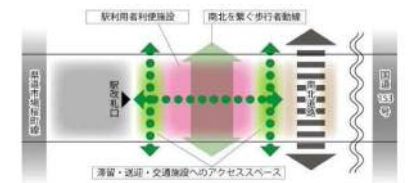
【詳細②】交通広場配置と高架下の活用

[交通広場について]

- ・リニア駅から種々の交通機関への円滑な移動を可能にし、乗換利便性を高めることができる、効率的でコンパクトな交通広場を計画する
- ・交通広場は、リニア駅への北側及び南側からのアクセス利便性を高めるため、南北それぞれに適切な規模で計画し、バス、タクシー、自家用車などが乗り降りできるスペースを確保

[リニア駅高架下の活用について]

- ・効率的でコンパクトな駅・駅周辺とする視点に加え、駅の利用にあたって利便性をより高めるための視点（送迎スペースの利用のしやすさや駅周辺施設の使いやすさなど）を踏まえ、南北道路や駅利用者利便施設等として活用することを検討する
- ・高架下の活用可能な規模及び方法については、今後明らかになるリニア駅の詳細な構造（高さ、柱間隔等）と調整を図りながら、JR東海をはじめバス等交通事業者などとの協議を進める



～リニア高架下の活用イメージ～

【詳細③】P&R 駐車場

- ・自家用車で駅にアクセスし、駅の駐車場に駐車したのち、リニアやバス等の公共交通機関に乗り換える利用者の利便性を高めるため、パーク＆ライド駐車場を確保する
- ・駐車場は周囲の街並みとの調和を重視し、リニア駅よりも低い高さとする

【詳細④】魅力発信施設

- ・魅力発信施設は、適切な規模と、来訪者や地域住民が利用しやすい配置を検討し、施設の本格化や低層化により風景になじむ施設とする

【詳細⑤】リニア駅と中心市街地

- ・飯田市においては、中心市街地活性化とリニア駅周辺整備の両輪で進めていく

これまでのトランジットハブ・道路ネットワーク部会の検討事項の整理

検討において、リニア駅周辺整備検討会議で承認を受けた事項について、以下に整理する。

街区道路の標準幅員

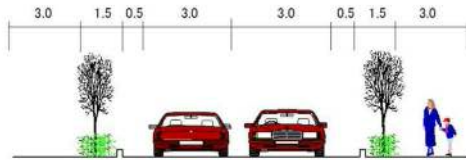
■街区道路の幅員

周辺道路の計画交通量から勘案して、第4種第3級の道路を想定する。

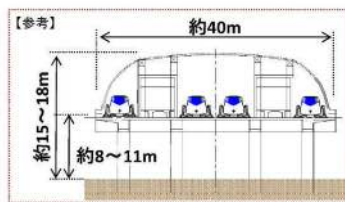
具体的には、**2車線道路、両側歩道、植栽帯の設置で幅員16m程度**を想定する。なお、交通広場周辺道路では、沿道土地利用から駐車場の設置が想定されるが、適切な駐車場設置を想定していることから、停車帯は設けないものとする。その他、防災や景観を考慮し、無電柱化も合わせて検討していくものとする。

16m道路(両側歩道(植栽帯))

標準幅員案



駅コンコース高

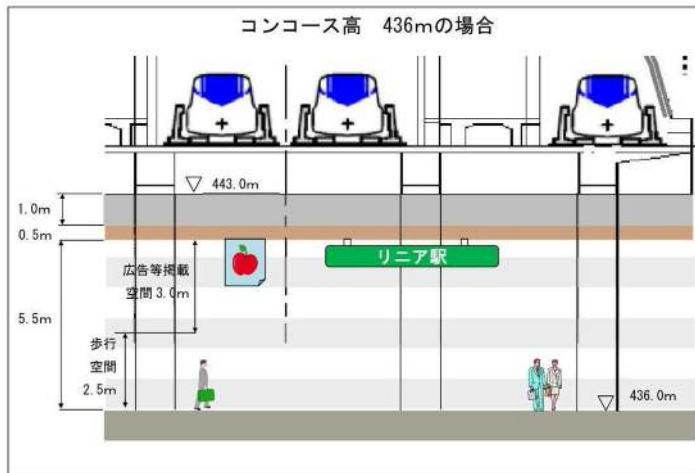


JR東海HP「事業説明会資料」より

■高さの設定

道路構造令より
通路としての機能を確保 : H=2.5m
一般的な事例より
広告(フラッグ)等の掲載を考慮した空間の確保 : H=2.0m~4.0m
よって、天井までの高さは、4m以上を確保。
国道153号(基準高さ435.1m)を踏まえた排水や広告等掲載空間を勘案すると**標高436m**が理想的であると考えられる。

コンコース高 436mの場合



造成計画高(基準)、道路計画方針

■平面的なコントロールポイント

- ① 信号交差点間隔は200m以上を目標
- ② 交差点は直角に取り付け
- ③ 交差点の影響範囲に街区道路は取り付けない
- ④ 街区道路(東西線)はリニア駅と平行に設置

■縦断的なコントロールポイント

- ⑤ 造成高は、国道153号とリニア中央新幹線との交差点付近の現況標高435.1mを基準高さとする造成計画とする。この場合、想定されるコンコースでの天井高も充分確保する事ができるものである。
- ⑥ 街区道路の縦断勾配は、原則5%以下

■縦断的なコントロールポイント

・造成計画高

駅周辺の造成計画は、移動等の円滑化に配慮し、傾度差が無い計画が求められる。また、周辺道路の現況高を勘案しつつ、国道153号とリニア中央新幹線との交差点付近の現況標高435.1mを基準高さとする造成計画とする。この場合、想定されるコンコースでの天井高も充分確保する事ができるものである。

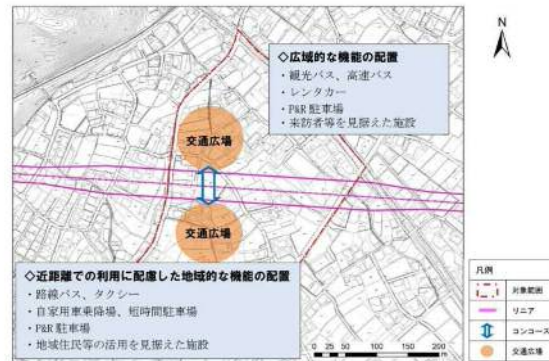
・道路縦断勾配

街区道路の縦断勾配は、「移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める省令(平成18年12月19日国土交通省令第116号)」に基づき、**最急勾配を原則として5%以下に設定する。**



南北の機能配置

街区道路の配置(南北道路の必要性)は、駅南北の機能配置を踏まえ、円滑に利用できることを念頭に置き以下の機能配置イメージの通り整理する。



■機能配置イメージ

■駅及び駅周辺利用者の想定

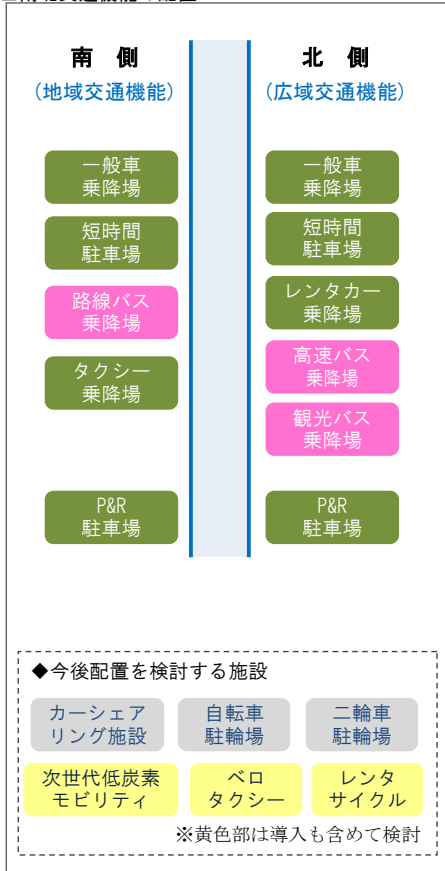
- ① 駅周辺居住者が駅を利用する場合
利用する交通手段により、駅の北側ないし南側を利用
- ② リニア利用の来訪者が目的地へ移動する場合
目的地が広域的な利用になると想定し、駅の北側施設から出発
- ③ 地域住民や来訪者が北側エリアの来訪者等を見据えた施設を利用する場合
来訪者等を見据えた施設が駅の北側に配置されることから、駅の北側を利用
- ④ 地域住民が南側エリアの地域住民等の活用を見据えた施設を利用する場合
地域住民等の活用を見据えた施設が駅の南側に配置されることから、駅の南側を利用

導入機能と配置場所

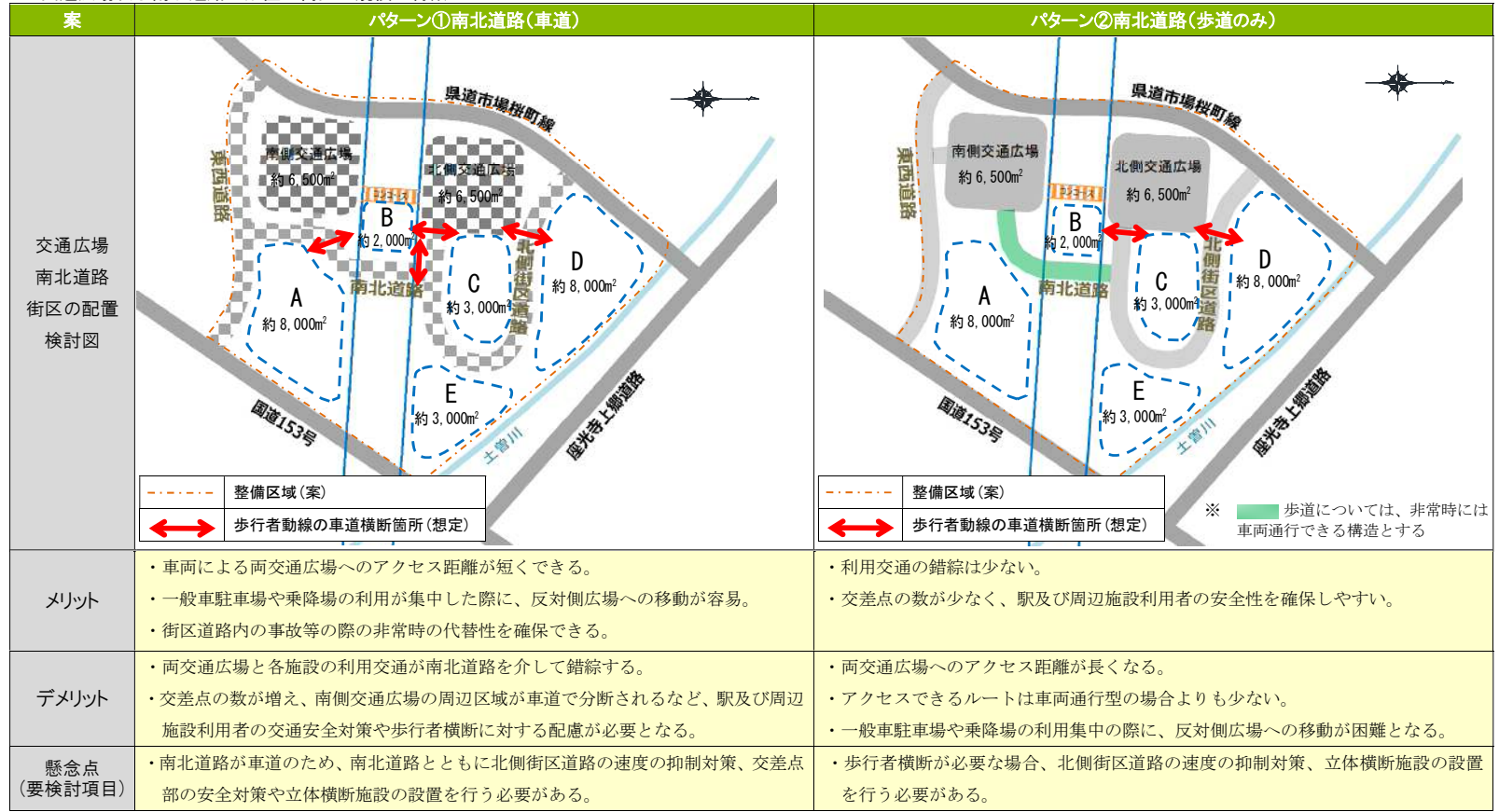
基本計画を立案するにあたり、機能・施設を細分化したうえで、配置場所を整理する。

基本構想で整理されている機能/施設	基本計画における機能/施設の再整理	配置場所
バス関連施設	乗車バス 降車バス	交通広場内 交通広場内
高速バス関連施設	乗車バス 降車バス 待機場	交通広場内 交通広場内 交通広場内
タクシー関連施設	乗車バス 降車バス タクシープール	交通広場内 交通広場内 交通広場内
自家用車(送迎)関連施設	乗車バス 降車バス 福祉バス	交通広場内 交通広場内 交通広場内
歩道設置	短時間駐機場(一般) 短時間駐機場(福祉)	交通広場内、交通広場外 交通広場内、交通広場外
車道設置	平面駐機場	交通広場内、交通広場外、高架下
環境空間	立体駐機場	交通広場外
P&R駐機場	車道 歩道 植栽帯	交通広場外 交通広場外 交通広場外
駅利用者利便施設	駅利用者利便施設	交通広場外、高架下
魅力発信施設	魅力発信施設	交通広場外
観光バス待機空間	観光バス待機空間	交通広場内
交流施設	観光バス待機場 観光バス駐機場	交通広場内又は交通広場外 交通広場外
公園	交流施設	交通広場外
—	公園 天候バリアフリー	交通広場外 各施設

■南北交通機能の配置



■交通広場及び南北道路の配置と街区の規模と特徴



8

■街区の特徴と懸念事項

街区の特徴	A	B	C	D	E
	・国道 153 号に隣接することから、国道からの利用者を対象とする比較的まとまった面積が確保できる。	・コンコースに隣接することから、駅利用者を対象とする。	・北側交通広場に隣接することから、北側交通広場と一体となった利用が可能。 街区道路を横断する必要があるが、コンコースからの距離が近いので、駅利用者にも使いやすい。	・座光寺スマート IC からのアクセス性が高く、比較的まとまった面積を確保できる。	・国道 153 号に隣接するが、国道からはアクセスが難しく、街区道路からのアクセスとなる。

※街区の面積は概算であり、今後の街区道路や交通広場等の検討により、変更します。

※調整池については、流域、高低差を考慮し、AまたはEへの設置を検討します。

各街区の施設配置と合わせて検討する

第4回魅力発信部会の内容（要旨）

1 説明報告内容

(1) 第5回リニア駅周辺整備検討会議の報告

リニア推進課から、過日開催された本会議の報告について、資料に基づき説明がされた。

(2) 魅力発信施設等に関する提案について

観光課から、これまでに提出された魅力発信施設に対する提案について、意見を集約した資料に基づき説明がされた。

2 魅力発信施設のあり方について

飯田市リニア駅周辺整備検討会議委員・日本経済研究所調査局長 大西達也氏より、魅力発信施設のあり方についてお話を伺った。内容については以下のとおり。

(1) 魅力の創出に向けた地域主体の観光振興について

- ・ リニアが開通することで人口増、ホテル・宿泊業の活性化、新幹線通勤などが期待されてきたが、新幹線通勤は過去のものになり、かつては多かった通勤用車両は減少している。逆に期待すべきは飯田に別荘を構えて来訪する「週末飯田族」や、ネットを通じて自宅で仕事ができる業種（SOHO）などである。
- ・ 観光客の価値観が変化している。量・安さ重視からゆったり・上質・少量にシフト。お金を落とすのは駅周辺ではなく、市街地から1～2km離れた集落になっている。
- ・ 2035年頃までには首都圏までも人口減少・超高齢化社会となる。旅行の「目的地」であり続けるためには、歴史に根ざした本物の生活文化を維持する住民、地域独自の高付加価値製品が必要である。
- ・ 行政、企業、住民の3者で地域活性化を図ることは、それぞれの目的が異なるため難しい。しかし、間にNPOや市民団体といった別の担い手を挟むことで、まちづくりが円滑に進むことがある（津軽海峡マグロ女子会など）。
- ・ まずは郷土愛の育成から始め、それによって住民から来訪者への伝達、交流が促進され、地域のファン（リピーター）が増える。こうした好循環を生み出すためには、住民たちの活動が外部評価されることが求められる。魅力発信の主体は、現地の住民である。魅力発信を自ら主導していく住民を発掘し、組織化していく必要がある。

(2) 全国の事例（紹介事例の一部）

- ・ 徳島県徳島市「とくしまマルシェ」 地元銀行主導の月1回の市場が常設店舗に発展した。
- ・ 島根県松江市「堀川遊覧船」 住民のボランティアを活用した市内観光。ボランティア同士が切磋琢磨する環境を形成し、退職後の生き甲斐を創出している。
- ・ 青森県八戸市「八戸ポータルミュージアムはっち」 美術館機能、公民館機能、観光案内などが集約されている。住民、観光客、ビジネス客など様々な利用者が交流できる。
- ・ 北海道函館市「バル街」 当初は住民向けに始めたイベントだったが、観光客を集めている。全国に広がったバルの発祥である。

(3) 北海道新幹線における新駅の事例

- ・ 木古内駅 駅前にロータリーを設置し、その対岸に道の駅が付設されている。
- ・ 新函館北斗駅 駅の周囲には畑が広がっている。駅舎には「弁当カフェ」がある他、「北斗市観光交流センター」が併設され、観光案内所が入っている。

3 その他

- ・ 今後は大西氏等からアドバイスをいただきながら事務局で骨子案を作成することが承認された。
- ・ 次回の部会は、6月中旬～7月中旬頃を予定している。

第 1 回環境・景観部会の内容（要旨）

日時：平成 28 年 6 月 2 日 15:00～

場所：飯田市役所 C311～313 号会議室

1 委員紹介・部会長選出

部会長：信州大学農学部 上原三知 准教授

2 確認事項

(1) 上位・関連計画における位置づけの整理

長野県リニア活用基本構想<長野県>、リニアバレー構想（骨子）<伊那谷自治体会議>、リニア将来ビジョン<南信州広域連合>、リニア駅周辺整備基本構想<飯田市>など上位・関連計画について事務局から説明があり、それぞれの位置づけを確認した。

(2) リニア駅周辺整備検討会議の経過

これまでの検討経過と平成 27 年度のまとめについて事務局から説明があり、リニア駅周辺整備検討会議（以下「全体会議」）での経過を確認した。

(3) 環境・景観部会の目的と役割

設置の目的と役割について事務局から説明があり、全体会議から委ねられたこの部会のミッションと主な検討内容を確認した。

3 協議事項

(1) 部会の進め方

平成 28 年度のこの部会 9 回の日程・検討内容、全体会議との関係と平成 39 年度リニア開業までの大まかなスケジュール等について事務局の説明後に、本部会の進め方について協議を行った。

主には、委員から「整備区域 6.5ha 以外も本部会の検討の対象となるのか」との質問に対し、事務局から「基本的には整備区域内の検討となるが、周辺にもどう波及できるかも検討いただければと考えている」と回答があり、また他の委員から「景観やサイン計画などは整備区域の中だけではなく来訪者が到達するルート全てにおいて検討が必要となる」との意見があった。それらに対し、他の委員から「伊那谷らしさと言う抽象的かつ大きな話があって、それから 6.5ha の整備区域があって、それから飯田や伊那谷に展開するという主に 3 つレイヤー（層）がある。伊那谷らしさは皆さんの思いを含めて、アイデア募集の意見の中にもかなりあると思うので、それらをまとめ、その中で実現しなければならないものを整備区域の中にどう落とし込めば良いか議論し、整備区域に落とし込まれた要素はこれからの飯田なり伊那谷にとって重要な要素であるので、それをどうやって周囲に展開していくのか、最後にまたレイヤーを拡げていくという議論の流れではないか。」との発言があり、検討の進め方について部会内で共有ができた。

(2) 意見交換

委員の自己紹介を兼ね、各自の思いなどを意見交換した。主な意見は次のとおり。

- ・リニアの恩恵の果実が伊那谷全体に行き渡らなければならない。大都市の間で埋没せず、伊那谷の個性でどんな役割を果たせるのか、学びから自ら考えることが必要。飯田の豊かな風土へと誘うのが駅周辺の役割であり、その装置としてのあり方を考えたい。
- ・地域産木材を多く利用してもらえるよう考えていきたい。
- ・エネルギーの地産地消は地域の自立につながり、リニア駅は地域のモデルになり得る。
- ・上伊那地域でのサイン看板を統一する民間団体の取り組みは参考にして欲しい。
- ・駅周辺だけでなく、周辺町村や沿道の調整についても検討していければと思う。
- ・自然保護・保全という意味では飯田は環境に対しての取り組みが素晴らしく、豊かな自然環境とともにアピールできればと思う。
- ・東北の復興を見ても、専門家の意見に従うだけ、地域住民の要望を聞くだけでは成功するとは限らない。「誰のために」または「理想と要望のバランス」を考えることが重要。景観や環境は遠回りかもしれないが人が住むにあたっては重要な要素である。

アイデア募集の結果について

1 募集方法

(1) 募集期間

平成 28 年 4 月 15 日～平成 28 年 5 月 27 日（必着）

(2) 提出方法

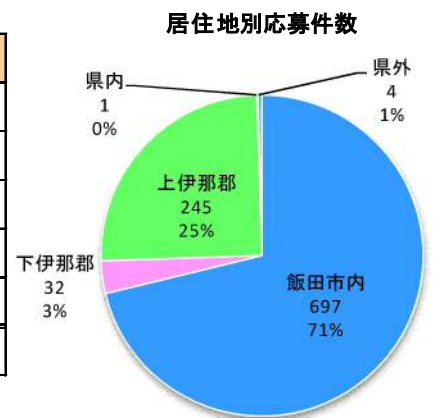
提出様式「リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア提案書」に必要事項を記載の上、A 4 用紙 2 枚又は A 3 用紙 1 枚にまとめて、電子メール、郵送又は持参により提出

2 募集結果

① 応募件数 (単位:件)

居住地	区分	小学生	中学生	高校生	一般	合計
飯田市内		522	127	12	36	697
下伊那郡		20	7	0	5	32
上伊那郡		243	0	0	2	245
県内(上記以外)		0	0	0	1	1
県外		0	0	0	4	4
計		785	134	12	48	979

※ 大学生は一般を含む

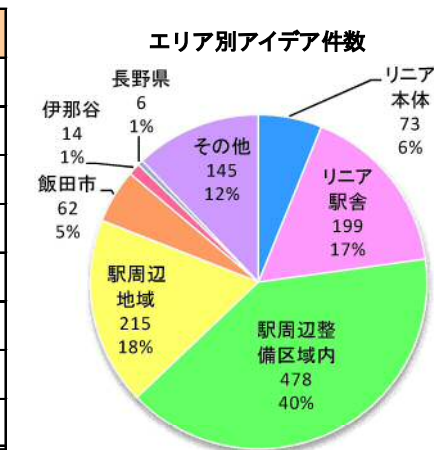


② エリア別のアイデア件数 (単位:件)

提案エリア	区分	小学生	中学生	高校生	一般	合計
リニア本体		66	3	1	3	73
リニア駅舎		163	19	6	11	199
駅周辺整備区域内		367	68	10	33	478
駅周辺地域 ※1		130	54	9	22	215
飯田市		23	14	8	17	62
伊那谷		6	1	6	1	14
長野県		0	0	5	1	6
その他		133	11	0	1	145
計		888	170	45	89	1192

※1) 提案エリア「駅周辺地域」は、駅周辺整備区域の周辺をさす。

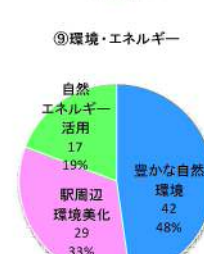
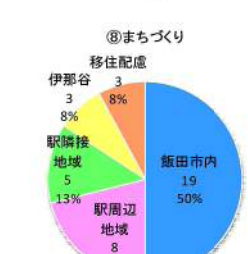
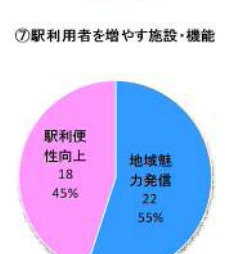
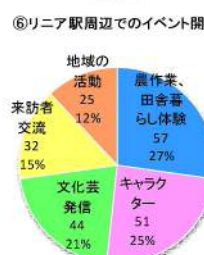
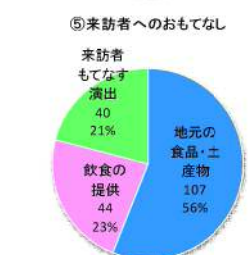
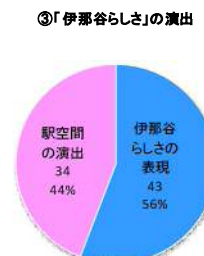
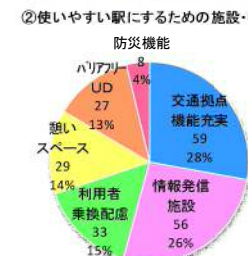
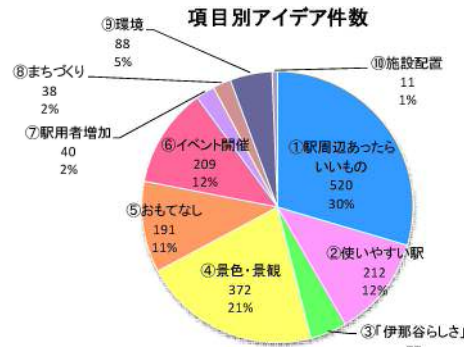
※2) 一人で複数の提案があるため、応募件数とは一致しない。



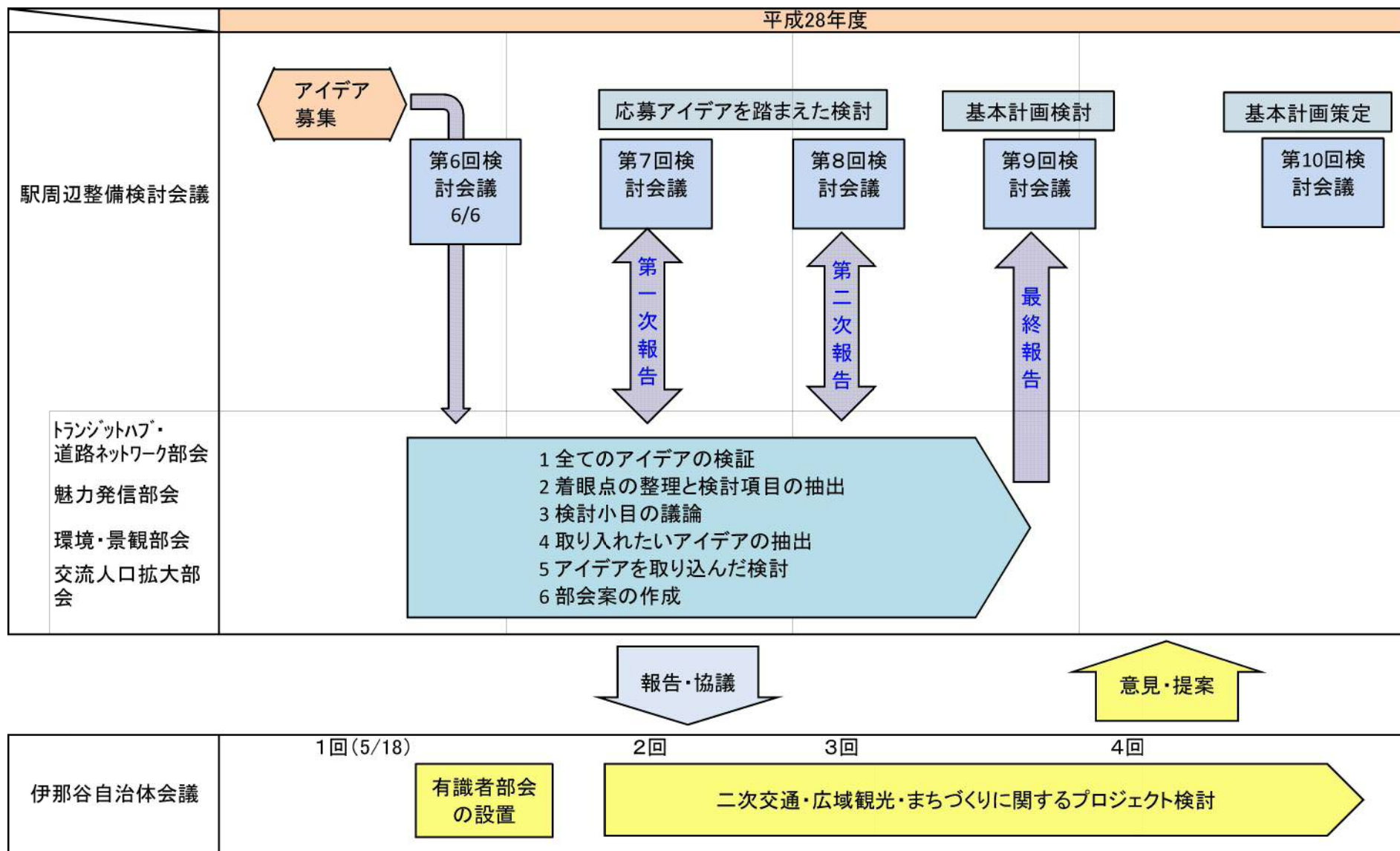
③ アイデアの項目 (単位:件)

項目	計
①リニア駅周辺にあったらいいもの	520
商業施設 (例) 大型店、小売店舗、地元農産物直売所、飲食店	250
公園	102
文化教育施設 (例) 音楽ホール、美術館、劇場、研究施設	83
宿泊、温泉施設	62
眺望施設 (例) 展望台	23
②使いやすい駅するための施設・機能	212
交通拠点としての機能の充実 (例) 駐車場、二次交通、ラウンドアバウトの整備	59
情報発信施設 (例) 観光案内所	56
利用者の乗り換えへの配慮 (例) 分かりやすい案内サインの設置	33
駅利用者の憩いスペース	29
バリアフリー、ユニバーサルデザイン	27
防災機能 (例) 災害時に避難できる広場、備蓄倉庫	8
③「伊那谷らしさ」の演出	77
伊那谷らしさの表現 (例) 人形劇や獅子舞まつりを紹介する展示ブース	43
地域産品を使用した駅空間の演出	34
④リニア駅に降り立ったときの景色・景観	372
緑の多い駅空間	144
リニア本体、駅舎自体への提案	122
駅からの眺望 (例) 南アルプス、駅周辺	48
デザイン (例) 施設・建物の色彩を統一	32
田舎らしさの表現	26
⑤来訪者へのおもてなし	191
地元の食品、土産物	107
飲食の提供	44
来訪者をもてなす演出	40
⑥リニア駅周辺でのイベント開催	209
農作業、田舎暮らし体験	57
キャラクターの作成・活用	51
文化芸能の発信 (例) 祭り、人形劇、演奏会	44
来訪者と地元の人々との交流	32
地域の活動	25
⑦駅利用者を増やす施設・機能	40
地域の魅力発信	22
駅利便性の向上	18
⑧まちづくり	38
飯田市内	19
駅周辺地域	8
駅に隣接する地域	5
伊那谷	3
移住者への配慮	3
⑨環境・エネルギー	88
豊かな自然環境	42
駅周辺の環境美化	29
自然エネルギーの活用	17
⑩地理的条件を踏まえた施設配置	11
南北の施設配置	6
現地形の高低差の活用	5
合計	1758

主たる検討部会(案)
魅力発信部会
トランジット・ハブ・道路ネットワーク部会
魅力発信部会
環境・景観部会
魅力発信部会
魅力発信部会
交流人口拡大部会
交流人口拡大部会
環境・景観部会
トランジット・ハブ・道路ネットワーク部会



リニア駅周辺整備検討会議今後のスケジュール



※今後の検討状況によって開催回数を調整する可能性がある。

募集要項

応募方法

- 提出様式「リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア提案書」に必要事項を記載の上、アイデアとともに、電子メール、郵送、持参の方法により提出してください。

※提出様式は飯田市公式ウェブサイトでダウンロードできます。
 ※アイデアは、A4用紙2枚（両面可）またはA3用紙1枚（両面可）までとします。また、アイデアは文字・絵・図面・画像など表現の仕方は自由です。（ただし、絵・図面の場合は説明を記入してください）

提出先

- ❖ 郵送・持参の場合
 〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534番地
 飯田市 リニア推進部 リニア整備課
- ❖ メールの場合
 ① linear@city.iida.nagano.jp
 ② 件名に「リニア駅周辺整備に係るアイデア募集について」と記載してください。

募集期間

4月15日(金)～
5月27日(金)【必着】

参考資料

飯田市公式ウェブサイト内「リニアのまちづくり・いいだ」に、「長野県リニア活用基本構想」、「リニアバレー構想」、「リニア将来ビジョン」、「リニア駅周辺整備基本構想」など参考資料を掲載しています。ご覧ください。

市HP

その他

- 提出いただいたアイデアには個別の回答はいたしません。アイデアは公表させていただきます。また、絵・図面などの著作物は返却いたしませんので、ご了承ください。なお、著作権は飯田市に帰属するものとします。

問い合わせ

〒395-8501 飯田市大久保町2534番地
 飯田市 リニア推進部 リニア整備課
 電話：0265(22)4511 内線3332
 ① linear@city.iida.nagano.jp

募集内容

自由な発想でリニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデアを募集します。文字、図面、絵、画像など、表現方法は問いません。

※図面・絵の場合は説明を記入してください。

応募資格

どなたでもご応募いただけます。

リニアが走る未来の

アイデア大募集!!

募集期間
4月15日(金)～
5月27日(金) **必着**

自由な発想で

募集内容

リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデアを募集します

例えば...

- リニア駅周辺にあつたらしいもの
- 「伊那谷らしさ」を表現するアイデア
- 来訪者へのおもてなしのアイデア
- 駅を利用する人を増やすためのアイデア
- 地理的条件を踏まえた上での、施設（機能）配置のアイデア
- 使いやすい駅にするためのアイデア
- リニア駅に降り立ったときのイメージ
- リニア駅周辺で行っていると感じる活動、イベント
- 環境に配慮したまちづくりのアイデア
- など

※応募方法は裏面の募集要項をご覧ください。

お問い合わせ先

飯田市 リニア推進部 リニア整備課 電話：0265(22)4511 内線3332



個人用提出様式

リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア提案書

提出日 平成28年 月 日

このことについて、別紙のとおり提案します。

■ 全項目の記載またはチェックをお願いします。メールアドレス等、記載することがない項目については、「なし」と記載をお願いします。記載がない場合は、意見として受け付けません。

項目	記載欄
ふりがな	
氏名	
氏名公開	<input type="checkbox"/> 匿名希望 ※匿名をご希望される場合は□にレ印を記入してください。
性別	<input checked="" type="checkbox"/> 男性  <input type="checkbox"/> 女性 
年齢	10代未満・10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代以上
所属機関 所属団体	
住所	
電話番号	
メールアドレス	

【郵送の場合】 〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534

飯田市役所 リニア推進部 リニア整備課 まで

【メールの場合】 linear@city.iida.nagano.jp

※件名に「リニア駅周辺整備に係るアイデア募集について」と記載してください。

提出先

団体・グループ用提出様式

リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデア提案書

提出日 平成28年 月 日

このことについて、別紙のとおり提案します。

■ 全項目の記載またはチェックをお願いします。メールアドレス等、記載することがない項目については、「なし」と記載をお願いします。記載がない場合は、意見として受け付けません。

項目	記載欄
ふりがな	
団体名 または グループ名	
団体公開	<input type="checkbox"/> 非公開希望 ※団体名の非公開をご希望される場合は□にレ印を記入してください。
ふりがな	
代表者氏名	
ふりがな	
担当者氏名	
所在地 または 代表者の 住所	
連絡先 電話番号	
連絡先 メールアドレス	

【郵送の場合】 〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534

飯田市役所 リニア推進部 リニア整備課 まで

【メールの場合】 linear@city.iida.nagano.jp

※件名に「リニア駅周辺整備に係るアイデア募集について」と記載してください。

提出先

募集要項

応募方法

- チラシ表紙の学校名、氏名、学年記入欄に必要事項を記入し、中面のアイデア記入欄に、文字・絵・図面など自由に書いて提出してください。

提出先

〒395-8501
長野県飯田市大久保町2534番地
リニア推進部 リニア整備課

募集期間

4月15日(金)～
5月27日(金)【必着】

その他

- 提出いただいたアイデアには個別の回答はいたしません。アイデアは公表させていただきます。また、絵・図面などの著作物は返却いたしませんので、ご了承ください。なお、著作権は飯田市に帰属するものとします。

参考資料

飯田市公式ウェブサイト内
「リニアのまちづくり・いいだ」に、
「長野県リニア活用基本構想」、
「リニアハレー構想」、「リニア将来ビジョン」、
「リニア駅周辺整備基本構想」など参考資料を掲載しています。ご覧ください。

市HP

問い合わせ

〒395-8501 飯田市大久保町2534番地
飯田市 リニア推進部 リニア整備課
電話：0265(22)4511 内線3332
✉ linear@city.iida.nagano.jp

募集内容

自由な発想でリニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデアを募集します。文字、図面、絵、画像など、表現方法は問いません。
※図面・絵の場合は説明を記入してください。

応募資格

どなたでもご応募いただけます。

リニアが走る未来の

アイデア大募集!!

募集内容

自由な発想で

リニア駅及びその周辺の整備・まちづくり等に関するアイデアを募集します

募集期間
4月15日(金)～
5月27日(金) 必着

例えば...

- リニア駅にあつたら「楽しいだろうな〜」、「うれいな〜」と思うもの
- 使いやすい駅にするためのアイデア
- 「伊那谷らしさ」や「伊那谷の良いところ」がわかるアイデア
- リニア駅に降りたときに「すごいな〜」、「きれいな〜」と感じてもらいための工夫
- リニア駅を利用して、伊那谷を訪れる日本人や海外の人へのおもてなしのアイデア
- リニア駅を利用する人を増やすためのアイデア
- リニア駅周辺でおこなっている楽しいと感じる活動やイベント
- 環境を大切にすまちづくりのアイデア

★学校名、氏名、学年を記入し、中面のアイデア記入欄に文字・絵・図面など自由にかいて応募してください。

学校名	年生
ふりがな	
氏名	



アイデアを文字・図・絵など何でもいいよ。
自由にかいてね。

